

6. ブドウ‘翠峰’の栽培技術マニュアルの作成（技術）			
[要約] 無核で極大粒の緑色ブドウとして注目されている新品種‘翠峰’の品種特性を明らかにするとともに、緑色ブドウ特有の果皮褐変障害防止技術、ホルモン処理技術などを確立して栽培マニュアルを作成した。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0276

## [背景・ねらい]

新品種ブドウ‘翠峰’は、無核栽培が可能で20gを超える極大粒ブドウとして注目され、県内への導入も進んでいる。しかし、新品種のため品種特性が明らかでなく、品種特性に応じた栽培技術も確立されていない。

そこで、‘翠峰’の品種特性を明らかにするとともに栽培技術を検討する。

## [成果の概要・特徴]

## ○品種の特性

1. ピオーネと同様のホルモン処理で無核果生産が可能である。果粒重が20gを超える極大粒種である。
2. ピオーネに比べて花穂の着生が少ない。糖度がピオーネに比べてやや低い。成熟期になると果皮が褐変（以下、果面障害）することがある。副梢の発生が遅くまで続き、病気にかかりやすい。ピオーネに比べて不発芽が多い。
3. 翠峰は安芸クイーンに比べて主芽の花穂分化数に大差はないが、主芽、副芽の壊死率が高く、副芽の花穂分化数が少ないため、花穂の着生数が少ない。

## ○栽培技術

1. ピオーネよりせん定を長くして2芽せん定とすることで1.8t/10a以上の収穫量を確保することができる。
2. 葉果比（葉面積㎡／着果量kg）が1より小さいと糖度が17度未満となって食味が劣る可能性が高い。一方、通常の管理では葉面積指数はおおむね2程度である。このことから、17度以上の糖度を目標にする場合は着果量を2t/10a程度以下にする必要がある。
3. 果面障害は成熟がすすみ過熟になると発生するので、翠峰の収穫は過熟に注意して適期に行う。  
また、果房に対して紫外線がカットできる笠を掛けることにより、果面障害果の発生を防止することができる。
4. 翠峰は横に張った花穂が多いため、花穂整形ではできるだけ先端部を使用して3cm程度に切り込み、さらに満開2週間後に果軸が6cm程度となるように切り込むと房型、房締まりが良い果房となる。ただし、果房重が750g程度となり、果房の横幅も13cmと大きくなるため2kg箱での出荷は困難であり、5kgダンボールコンテナ箱での出荷となる。

以上の成果などにに基づき、‘翠峰’の栽培技術マニュアルを作成した。

## [成果の活用面・留意点]

1. マニュアルは指導機関に配布する。

[具体的データ]



図1 翠峰の成熟果房

表1 翠峰の生産目標

項目	目標
果房重	650g～750g
果粒重	17g～20g
糖度	17度 (Brix) 以上
収量	1.8t～2.0t/10a

[その他]

試験研究課題・事業名：新品種ブドウの栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成12～16年度

関連情報等：平成14年度試験研究主要成果「ブドウ‘翠峰’果皮の褐変症状の発生条件（情報）」

平成16年度試験研究主要成果「ブドウ‘翠峰’の笠かけによる果皮の褐変症状防止技術」

平成15年度園芸学会中四国支部発表要旨「ブドウ‘翠峰’及び‘瀬戸ジャイアンツ’果皮の褐変に及ぼすジベレリンとホルクロルフエニユロンによる果粒肥大処理の影響」